

医療サービスの海外輸出を進める彰化基督教病院

彰化基督教病院は100年以上の歴史を有し、台湾中部で最大規模を誇る。キリスト教の人道的な医療サービスの影響を受けながら、海外展開にも積極的であり、台湾で数少ない海外市場で発展を遂げている医療グループである。今回は当病院の郭守仁院長を訪ね、これまでの発展の軌跡及び医療サービスの海外輸出の現状と今後の展望についてお話を伺った。



彰化基督教病院 郭守仁院長

台湾中部を代表する医療グループ

彰化基督教病院(以下、彰基病院)の歴史は、十九世紀末まで遡ります。当時英国の長老派教会がCampbell Naismith Moody 牧師、A.B.Nielson 牧師及びDavid Landsborough 医師の3名の宣教師を台湾に派遣しました。彼らは台湾の乏しい医療環境を目の当たりにし、1896年彰化市に『彰化クリニック』を開設し地元の人々に医療サービスの提供を始めました。このクリニックが、現在の彰基病院の前身となっています。

彰基病院は、119年の歴史があります。現在は、彰化キリスト教医療財団法人が中心となり運営しており、傘下にはメディカルセンター1ヶ所、地元医院2ヶ所、地域病院5ヶ所、精神病院1ヶ所があります。総病床数は約3,600床、サービス範囲は彰化縣、雲林縣、南投縣、台東縣に及び、診察患者数は一日当たり約13,000人、急患者数はひと月当たり約25,000人と、台湾中部において最大規模の医療グループとなっています。

全ての人にサービスを提供、 継続的に医療の品質向上を目指す

彰基病院は台湾でもユニークなキリスト教系病院です。謙虚に患者の足を洗う姿勢を模して作成された病院のロゴにも反映されているとおり、公平無私な愛情を持って全ての人に献身的な医療サービスを提供することをモットーとしています。

2000年7月には医療サービスの更なる向上を目指し、台湾で初となる「医療品質部」を設置しました。当部門では専門のスタッフが、当院の医療品質の向上、関連情報システム

の構築を推進しています。医療品質に関するプラットフォームやIT化指標管理・検査システムを構築することで、医療のIT化を促進し、サービス・管理品質の向上に取り組んでいます。またこうして開発したIT化指標管理・検査システムは3年連続(2009年～2011年)で台湾医務管理学会(THIS)の定める優良模範病院として認定されています。

近年は遠距離医療・看護システムを積極的に推進しており、都心から離れた地域に住む方や身体の不自由な方を対象とした医療介護サービスも提供しています。その他、医療現場の後方支援管理システムも整備しており、サービス効率の改善や、院内の衛生水準を高め、院内感染対策を行うなど、患者の安全を強化しています。一例として車椅子のレンタル管理システムでは、患者や家族が車椅子をICタイプの健康保険カードを使い迅速にレンタルすることを可能にし、返却場所もフレキシブルになっています。更に当システムでは、車椅子利用者の疾患内容も記録・管理しており、利用後は適切な消毒作業を行い、次の利用者に貸し出される仕組みで、院内感染の防止や安全対策を強化しています。

積極的な国際支援と認証取得

彰基病院には、設立者の人道的医療の姿勢が脈々と受け継がれています。現在でも、設立者である英国の宣教師の教えである貢献的な精神を引き継ぎ、政府の医療外交を継続的にサポートしています。2006年には「国際医療センター」を設置し、世界各地から訪れる医療スタッフに研修の機会を提供しています。現在、支援している国は、スワジランド王国、パプアニューギニア、サントメ・プリンシペ民主共和国、

台湾トップ企業

セントルシア等です。

また、世界各国の患者との接触が増え、医療品質の更なる向上が必要な状況の下、当院は国際認証の獲得にも積極的に取り組んでいます。2008年9月には、初めて「Joint Commission International Accreditation (JCIA)」の認証を獲得し、その後も2011年及び2014年に高評価を得て認証を獲得しています。その他、台湾SNQ認証(国家品質標章)を台湾で最多の39項目に渡り獲得し、また、「Clinical Care Program Certification (CCPC)」は10項目を獲得しており、CCPC認証を世界で最も多く獲得しています。

このように彰基病院は継続的に医療情報システムを開発する一方、JCI認証を獲得するレベルのサービスを作り上げるノウハウを有しており、台湾でも数少ない医療サービス輸出の成功事例となっています。

—活発化する中国市場への医療輸出

2013年、彰基病院は中国遠東宏信有限公司と提携し、「上海宏信病院管理有限公司」を設立、正式に中国市場に参入を果たしました。

上海宏信のプラットフォームを活用し、スマート後方支援管理、患者の安全及び医療品質の管理・サポート、運営管理サポート、実績管理サポート、人材リソース管理サポート、病院の受託管理、JCIA評価及び中国の評価基準の審査サポート等多様なサービスを提供しています。

こうして国内外の認証を数多く獲得したことで、中国から当院に研修生を派遣する医療団体も増加しています。2013年には30チーム以上が彰基病院を訪問し、交流・研修を行いました。これまでに交流数は2,060人日、2014年には98チーム、計3,089人日まで増えており、これらの交流を通じて彰基病院から台湾の医療技術やサービスが中国に輸出されているだけでなく、兩岸医療人材の交流が促進され、兩岸医療サービス産業を形成する好循環につながっています。

2014年1月には、サービスの拡大とより高い品質の医療提供を目指し、「国際医療センター」を「国際医療事業部」及び「海外医療センター」へと拡大しました。特に国際医療事業部では中国に向けた医療支援、医療スタッフの交流・研修等を専門で担当しています。また国際レベルの

ンファレンスセンターも整備し、ハイレベルなスタッフ育成環境を提供しています。

—世界と繋がる彰基病院

中国市場での実績の他、現在はベトナムにも進出し、現地の病院開設をサポートしています。こうした医療サービスの海外輸出は当病院の事業の一部として毎年一定の収益を生んでおり、長期的な病院経営にとってプラスに作用しています。

近年、台湾及び日本政府は積極的に医療サービスの海外輸出を推進しています。台湾の医療技術は海外市場に参入する十分な能力を備えており、特に中国及び東南アジア市場に対して当病院では国際連携に積極的に取り組んでいます。「踏み出せば、世界と繋がる」という理念の下、連携対象や連携モデルにこだわることなく、将来的には医療分野で日台連携の可能性についても期待しています。

—ありがとうございました。



彰化基督教病院の基本データ

名称	彰化キリスト教医療財団法人・彰化キリスト教病院
代表者	郭守仁 院長
設立	1896年
従業員	約7,100名
事業内容	医療サービスの提供及び海外輸出

注)2015年1月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理